

## 藤井節郎記念医科学センターを設置

2013(平成25)年4月

藤井節郎記念医科学センターは、故藤井節郎博士の研究成果から生まれた特許収入で設立された一般財団法人藤井節郎記念大阪基礎医学研究奨励会からの寄付によって、2013(平成25)年11月に徳島大学に開設された。藤井節郎博士は、1962(昭和37)年から1976(昭和51)年まで徳島大学医学部酵素生理学部門教授を務め、現在でも使用される癌や肺炎など治療薬6剤を発明・開発し、アカデミアのみならず社会にも大きく貢献された。

藤井節郎記念医科学センターは、藤井博士に倣って、学際融合研究によりイノベーションに繋がる優れた生命科学研究成果を挙げることを目指し、研究活動を行なっている。5階建ての1階には、藤井節郎先生の功績を紹介する展示室に加えて、200名近くを収容できるセミナーホールとポスター展示などができるホワイエがあり、学会やセミナーなど研究交流に活用されている。渡り廊下で繋がる2

階には、事務・管理部門や先端解析を可能にする共通機器室があり、センター外からのアクセスも容易である。3階と5階には研究分野の壁の枠を超えた学際融合研究を推進するためのオープンラボと生命科学を行うための基盤機器を完備されており、利用手続き後すぐに研究を開始できる環境である。3階と5階から等しくアクセスできる4階には、先端的な研究に必要な大型機器室、学内外に向けた受託解析室、専有して学内外との共同研究をするためのレンタルラボが用意されている。

2016(平成28)年4月からは、先端酵素学研究所の附属センターとして再出発し、学際融合研究によるオープンイノベーションの核となる先導的研究拠点として位置付けられている。年々、センター利用者は増加しており、現在では学内の19の研究グループと学外の3つの企業がセンターで研究活動を展開している。

